

第51回織田幹雄記念国際陸上競技大会を迎えるにあたり、今年も、織田幹雄さんの出身地「海田町」を訪れた。前海田町ふるさと館館長(現広島大学教育学研究科研究生)青木義和さんの協力を得て、織田さんが選手時代から、記述してこられたノートを見せてもらった。それは、手帳も含め、数十冊。「勝負師となれ」とある「わが一代記」には、小学校時代からの記録がしたためられていた。初めて代表選手となった頃、朝日新聞社勤務時代、早稲田大学で指導者として教鞭をとられていた頃の指導案まで、様々自分のことが複数のノートへ記されていた。しかし、それだけではない。各種大会の結果、日本記録、世界記録も整理されていた。もちろん、全種目についてである。現役選手でいながらにして、なぜ、こんなに多くの文書、記録を整理したのだろうか。それは、自分の立ち位置を知るためだったようだ。

ノートを拝見する中で、織田さんは、多才で繊細で謙虚、そして努力家であると感じた。研究者の如く、鋭く分析をされている。これこそ、織田幹雄さんが後世に残したメッセージ「勝負師となれ」の奥深い背景であると感動した。今回の織田幹雄記念国際陸上競技大会のポスターは、そんな織田さんが残されたノートをテーマとした。多くの方に、織田さんの勝負師としての奥深さを感じていただければ幸いである。

*陸連時報「陸協 NEWS」 5月号より引用

(一財)広島陸上競技協会
企画広報委員長
藤原 文代